

1 はじめに

(1) テーマ設定の背景

令和5年度の社会教育委員の会議において、委員より「障害者向けの事業はありますか、無いのであれば、そういった視点も必要ではないでしょうか」との発言があった。それまで、社会教育施設では地域のニーズに応じた生涯学習にかかわるイベントや講座を開催していたが、「障害者」の方々を対象とした講座を開催したり、障害者の方々のニーズを聞き取って講座を企画したりすることがなかった。この発言をきっかけに、社会教育課が主催する社会教育関係機関職員研修において「障がい児理解に関する勉強会」を開催し、また社会教育主事と各公民館等の社会教育関係職員で構成される「茅ヶ崎市社会教育主事会」（以下、「主事会」とする。）においては共生社会推進に向けた取組みについての議論がなされた。これらを踏まえ、令和6年度の主事会において、調査・研究テーマを「障がい児・障がい者が自分らしく生きることができるために社会教育施設は何ができるか」と設定し、研究を進めることとなった。

(2) 調査・研究に向けて

主事会が取り組んだ主な内容は次のとおりである。

先述の社会教育関係職員研修「障がい児理解に関する勉強会」は、日々障害児の支援・指導にあたっている市内の特別支援学校である茅ヶ崎支援学校の教員を講師として招いた。茅ヶ崎支援学校には地域とのつながりを推進していくことを職務とした共生社会推進担当がおり（R5、6年度）、この教員に研修講師を依頼するとともに、研修後には社会教育委員を委嘱した。

その後、主事会に当該社会教育委員が参加し、学校が有する障害に関わる分野の知見を共有しながら、調査・研究テーマについての熟議を重ねた。

2 実践内容

(1) 社会教育施設利用に関するアンケート

茅ヶ崎支援学校の教職員と保護者それぞれを対象に、今までの公民館の利用や活動への参加、公民館に対するイメージや期待すること等、社会教育施設利用に関わる情報収集や課題の抽出を目的としたアンケートを実施した。主事会においてアンケート結果を検証し、教職員・保護者・社会教育施設職員の三者において、「よりお互いを知り、何ができるかを一緒に考える意見交換会」を企画することとした。

(2) みんなのしゃべり場 with 茅ヶ崎支援学校

茅ヶ崎支援学校の保護者、教員、公民館・青少年会館職員が参加するフリートーク会を茅ヶ崎支援学校で開催した。社会教育課からの社会教育施設説明の後、カフェスタイルのリラックスした雰囲気の中、各公民館からのPRプレゼンテーション、情報共有や意見交換が行われた。保護者から公民館へは、講座内容や配慮事項について当事者目線からの具体的な意見が挙げられていた。この会で集まった意見や感想、事後アンケートを参考に新講座を検討することとなった。

(3) 子どももおとなもみんなで音あそび

小学生の障害者とその家族を対象とした、音楽的な内容の講座を企画し、茅ヶ崎支援学校に近い鶴嶺公民館で開催した。茅ヶ崎支援学校と近隣の特別支援学級の児童にイベントを周知し、当日は6家庭が参加した。講座では、好きな楽器を自由に演奏したり、演奏しながら体を動かした

り、子どももおとなもそれぞれの方法で音楽を楽しむ様子が見られた。活動後のアンケートには、「支援級の子どもが参加できるイベントがないのでありがたかった」「楽しめた」「またイベントに参加したい」「公民館にまた行ってみたい」との記述が多くあった。

3 成果と課題

社会教育委員のメンバーに特別支援学校の教員を入れることで、今まで見落としてしまっていた特別支援学校や特別支援学級の児童生徒にも焦点を当てることができた。また、地域の障害者とその家庭のニーズをもとに、相互理解を図りながら講座を企画したことは、地域における共生社会の広がりにつながったと評価できる。引き続き障害ある子どもたちも巻き込んでいけるとよい。

一方、今回実施した講座は、障害児対象であり、「共生社会」の視点で捉えたと改善の余地が残る。障害のある人もない人も誰もが安心して参加できるという点も「共生社会」には必要となるであろう。

4 今後の展望

「すべての子どもたちに目を向け巻き込んでいく」という視点から、特別支援学校と連携し新しい取り組みを実現させることができた。今後も連携を図りながら共生社会の輪を広げていきたい。また、より効果的に共生社会を広げていくには、「横のつながり」も大切であると考え。同じ講座を他の公民館で実施したり、同じ環境整備を他施設でも行ったりするなど、市内の社会教育施設が連携を図ることも重要となるであろう。（「子どもとおとなもみんなで音あそび」は、他の公民館でも開催を予定している。）

最後に、今後、本市における特別支援学校と連携した取り組みを他自治体へ発信したり、他自治体における好事例を参考にしたりしながら、誰もが自分らしく生きることを目指して、茅ヶ崎の共生社会推進の役割を担っていきたいと考える。